

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里第一小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A 物質・エネルギー」、「B 生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

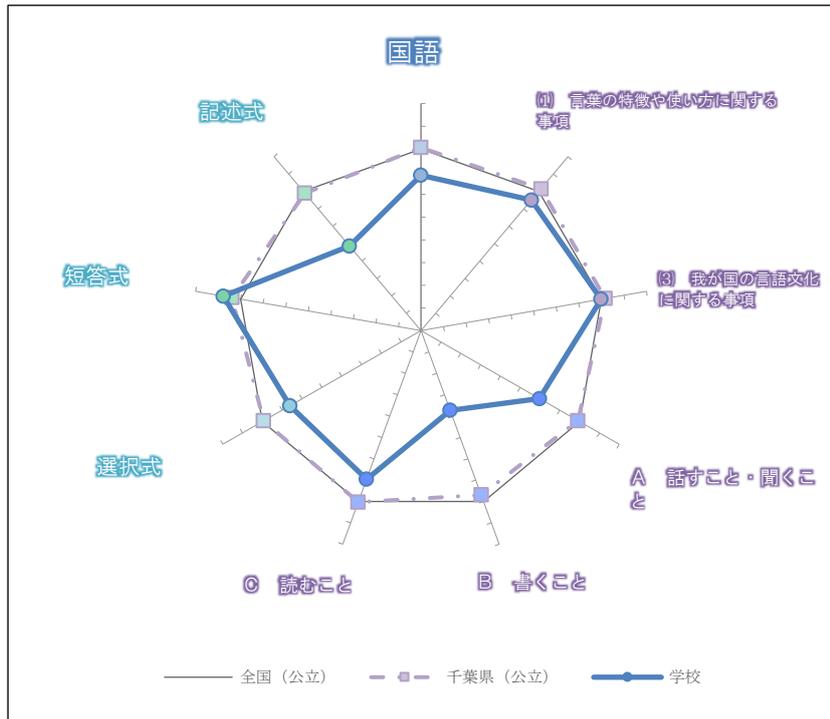
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



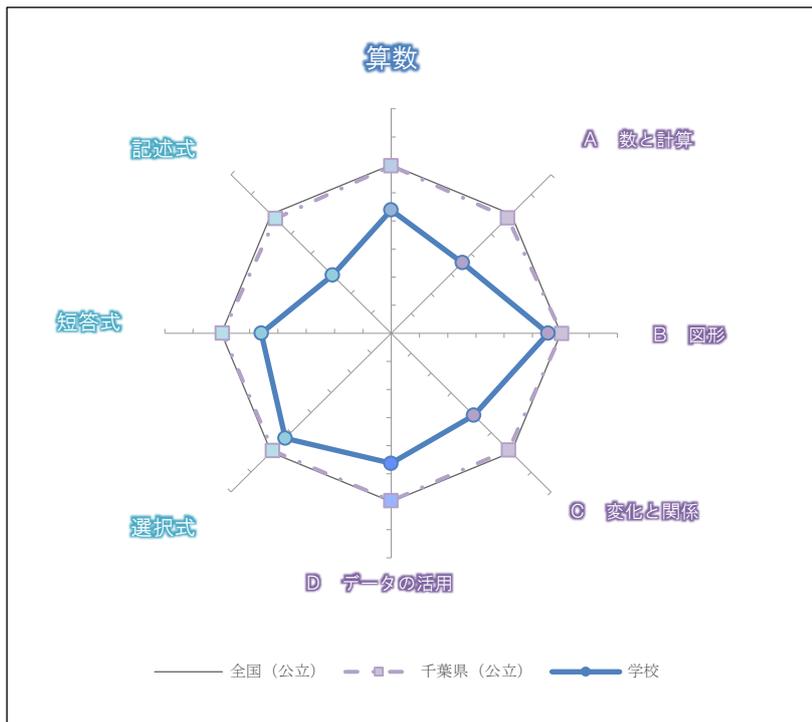
【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域すべてが、全国平均を下回っています。特に、「書くこと」の領域は大幅に下回っています。
- 選択式の問題は、全国平均を下回っています。
- 短答式の問題は、全国平均と上回っています。
- 記述式の問題は、全国平均を大幅に下回っています。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに、課題があります。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、比較的よくできていました。

【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎問題の確実な定着を図ります。
- 「書くこと」については、課題に対して筋道を立て論理的に考える活動、自分の考えを順序立てて文章構成する活動、そして自分の考えを適切な言葉を使って表現する活動などを、様々な教科、場面において積極的に取り入れることで、文章表現力の向上を図っていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を取り入れていきます。
- 「読むこと」については、図書、新聞をはじめとする、様々な文章を読んだり、活用したりする機会を増やし、向上を図ります。
- 記述式の問題で、自分の考えをしっかりと言葉で書けるように、表現する活動を意図的に取り入れていきます。

算 数



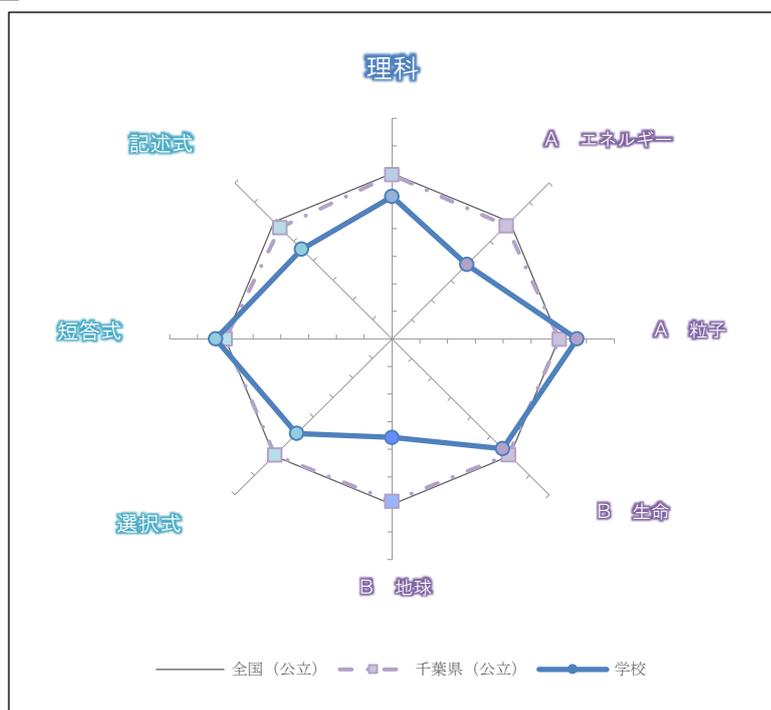
【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域すべてが、全国平均を下回っています。特に「数と計算」の領域は、全国平均を大幅に下回っています。
- 選択式、短答式、記述式の問題すべてが、全国平均を下回っています。特に、記述式の問題は、大幅に下回っています。
- 百分率で表された割合を分数で表す問題は、比較的よくできていました。
- 二つの数の最小公倍数を求めることに課題があります。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題に課題があります。

【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎問題の確実な定着を図ります。
- 問われていることが何かを適切に判断するために必要な読む力を向上させるため、国語科の学習とあわせて、文章を読んで要点を正しく読み取る活動を行います。
- 図形や数量を日常生活と関連づけて解釈するような活動を意図的に取り入れます。
- 記述問題の課題を克服するため、日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させます。
- グラフや他の資料の読み取りについて、社会科の学習と併せて読み取る力、活用する力の指導の充実を図ります。

理 科



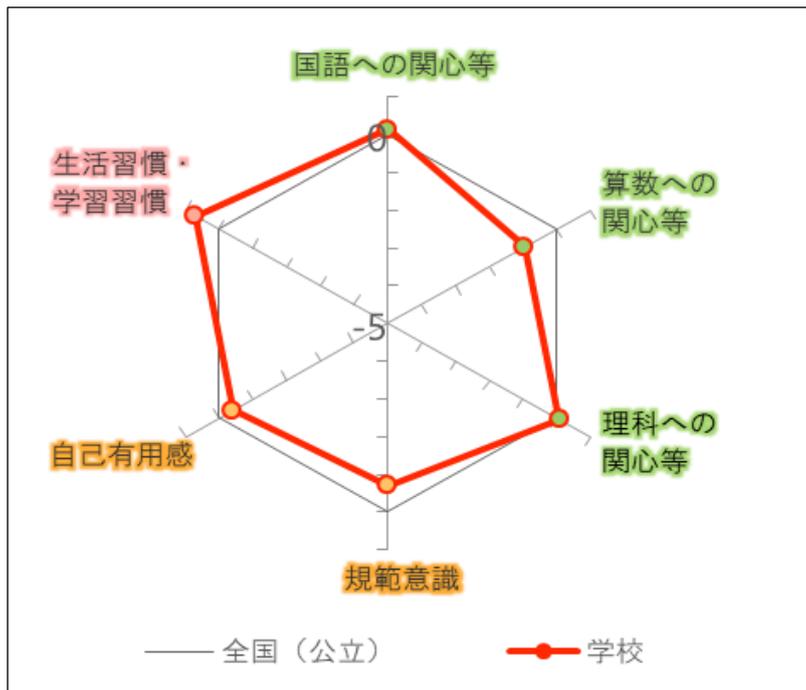
【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「エネルギー」「生命」「地球」の領域は、全国平均を下回っています。特に「エネルギー」「地球」の領域は、全国平均を大幅に下回っています。
- 「粒子」の領域は、全国平均を上回っています。
- 短答式の問題は、全国平均を上回っています。
- 選択式、記述式の問題は、全国平均を下回っています。
- メスシリンダーという器具を理解する問題は、比較的よくできていました。
- 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつという問題に課題があります。

【改善方策等】

- 観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにします。
- 問題を解決するまでの道筋を構想し、解決の方法を発想することができるようにする活動を行います。
- 記述問題の課題を克服するため、日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「国語への関心等」「理科への関心等」「生活習慣・学習習慣」の項目は、全国平均と比較して上回っています。
- 「算数への関心等」「規範意識」「自己有用感」の項目は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「自分にはよいところがありますか」という設問に対して、否定的な回答の割合が多かったです。
- 「学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、全国平均と比較して、勉強時間が少ない児童が多かったです。
- 「新聞を読んでいますか」という設問に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した割合が非常に多かったです。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められています。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「思考力・表現力」の向上に努めてまいります。さらに、目的に応じて話し合ったり、文章を書いたりする活動も充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。そして、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫・改善を図っていきます。

本校では今年度から学力向上委員会を機能させ、授業規律の向上、自学ノート、音読カード、漢字・計算検定など、さまざまな取り組みを行い、学力の向上を図っています。ご家庭でも宿題の確認、生活習慣の確立など、ご協力いただければ幸いです。

児童の成長は学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。